

講演要旨纏め

演 題 ベースオイル動向と原油情勢について

講 師 新日本石油株式会社 潤滑油販売部 潤滑油 5 グループ

シニアスタッフ 前山 孝二氏

1. はじめに

急成長する中国・インドを筆頭にアジア地域は目覚ましい経済成長を遂げている。旺盛な需要を背景に、自動車産業を中心とした各種製造業の設備投資も非常に活発であり、生産活動の増加に伴い貨物量も増加している。その結果、自動車用潤滑油や工業用潤滑油に加え、船舶用潤滑油の需要が急増し、ひいては潤滑油の基となるベースオイルの需要が大きく伸びている。近年見られないレベルで需給が逼迫しているアジア地域におけるベースオイルについて、背景および今後の需給展望について概説された。

2. ベースオイルの分類と品質

グループ I・II・III ベースオイルの製造方法および分類について解説された。

3. 潤滑油製品の動向

自動車関連では省燃費、長寿命、排ガス規制、高性能の観点からベースオイルの品質としては高粘度指数、高飽和分、低硫黄分が要求されグループ II・III のニーズが増大する。

工業用関連ではグループ I が主流で需要も増加傾向であるが、省エネ・長寿命タイプのニーズが高い油圧作動油、空気圧縮機油等ではグループ II・III が採用され、特殊用途では合成油が採用される。

船舶用関連では世界的な生産活動の増加に伴い貨物量が増加し新造船ラッシュであり、船舶用潤滑油の需要が増大する。今後 500 SN および 150 BS の安定供給が課題である。

4. アジア圏のベースオイル需給状況

ベースオイルの製造能力は世界的においてはグループ I が主流である。アジア圏ではグループ III の生産能力が際立ち韓国が世界の供給元である。

潤滑油需要においては 1995～2000 年はインド・タイをはじめ ASEAN 地域は経済危機による一部消費の減退があったものの 2000～2005 年は景気回復により 2000 年以降 +20% を示している。また予測では中国が 2010 年には日本 1 国分の需要増加が見込まれ、アジア圏内の経済発展に伴い潤滑油消費の持続的成長・高成長市場として位置づけられる。

アジア圏内のベースオイル事情は 2006～2008 年中頃までアジア圏内でシャットダウン計画が集中するため 2008 年中頃までアジア圏内の需給はタイトになる。

5. 最近のベースオイルの価格動向

ICIS-LOR がベースオイル国際取引の多くで基準とされる。2010 年までの見通しとしてグループ I、グループ II・III 共に需要は拡大し、グループ I は価格が上昇、グループ II・III は低下するとの予測である。

以上